

2021年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2021年1月28日 テレフォンカンファレンス
7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益	1,465	1,469	+4	+0%
税引前四半期利益	383	458	+75	+20%
四半期利益	297	369	+73	+25%
cf. 通常の営業活動 からの利益	383	461	+79	+21%

COVID-19からの回復基調が継続し、利益は2ケタの成長、過去最高益を更新。

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,494	1,469	-25	+29	+2%
税引前四半期利益	468	458	-10	+85	+22%
四半期利益	379	369	-10	+82	+28%

主要通貨	(A)Q3 FY19 レート	(B)Q3 FY20 レート	変動率
US\$	¥109.33	¥104.00	+4.9%(円高)
EURO	¥121.53	¥124.49	-2.4%(円安)
BAHT	¥3.62	¥3.41	+5.7%(円高)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY
収益合計	1,482	1,497	+16
その他の収益	7	25	+17
費用合計	1,098	1,039	-59
為替差損	1	14	+12
税引前四半期利益	383	458	+75

① 商標権の譲渡によりその他の収益が増加

② 前年同期ほとんど発生していなかった外貨建て資産の評価替えにより発生する為替差損が、今期は14億円発生

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	925	945	+20	+2%
税引前四半期利益	153	207	+54	+35%
cf.通常の営業活動 からの利益	157	217	+61	+39%
cf.通常の営業活動 からの利益率	16.9%	23.0%	+6.1pt	

*外部売上の数値

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	957	945	-13	+33	+4%
税引前四半期利益	213	207	-5	+60	+39%
cf.通常の営業活動 からの利益	223	217	-5	+66	+42%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	527	511	-16	-3%
税引前四半期利益	235	239	+4	+2%
cf.通常の営業活動 からの利益	236	251	+15	+6%
cf.通常の営業活動 からの利益率	44.9%	49.2%	+4.3pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	523	511	-12	-4	-1%
税引前四半期利益	244	239	-5	+9	+4%
cf.通常の営業活動 からの利益	257	251	-5	+20	+9%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY	YoY(%)
ヘルスケア (メガネ/コンタクトレンズ)	668	691	+23 (+35)	+3% (+5%)
メディカル (眼内レンズ/内視鏡/人工骨)	257	254	-3 (-2)	-1% (-1%)
エレクトロニクス (LSI&FPD/HDD基板)	439	431	-8 (+4)	-2% (+1%)
映像	88	79	-8 (-8)	-10% (-9%)

*括弧内は為替換算影響を除いた実質的な増減額

貸借対照表

(億円)	Q2 FY20	Q3 FY20	QoQ
非流動資産	2,854	2,873	+20
流動資産	5,405	5,262	-144 ¹
資本	6,636	6,516	-120 ²
非流動負債	463	454	-8
流動負債	1,161	1,165	+4
資本及び負債合計	8,259	8,135	-124

- 1 自社株買いにより現金が194億円減少
- 2 自社株買いにより自己株式が313億円増加（※科目としてはマイナス表記）

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q3 FY19	Q3 FY20	YoY
営業活動によるCF	401	402	+1
投資活動によるCF	-117	-68	+49
財務活動によるCF	-279	-505	-226
現金及び現金同等物期末残高	3,044	3,181	+137

- ① 自社株買いの実施金額が前期より増えたため、財務活動による支出が増加

自社株買いについて

昨年10月下旬開始の自社株買いが100%消化で完了。先行きの見通しが改善してきていることや、ただちに大型のM&Aの実行予定がないことなどから、自社株買いの<第2弾>実施を決議。

第1弾

取得期間：2020/10/28～2021/01/20

取得株数：305万株(発行済の0.82%)

➡100%消化。全株消却

第2弾

取得期間：2021/01/29～2021/04/20

取得株数の上限：330万株(発行済の0.89%)

取得価額の上限：400億円

➡取得後消却予定

New

Q4 & 通期 予測

- ✓ Q4のライフケア事業は、既にCOVID-19の影響が出始め、かつ消費増税の影響が残っていた前Q4に対し、堅調な推移を見込む
- ✓ 情報・通信事業は、Q4においてデータセンター投資のサイクルが巡ってくるHDD基板や、引き続き好調な半導体ブランクスなどにけん引される見込み

FY20 Q4予測

(億円)	Q4 FY19	Q4 FY20	増減	増減率
売上収益	1,351	1,445	+94	+7%
税引前四半期利益	277	381	+104	+38%
四半期利益	197	301	+104	+53%

FY20 通期予測

(億円)	FY19	FY20	増減	増減率
売上収益	5,765	5,410	-355	-6%
税引前当期利益	1,473	1,560	+87	+6%
当期利益	1,146	1,245	+99	+9%

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [CTO 池田 英一郎]

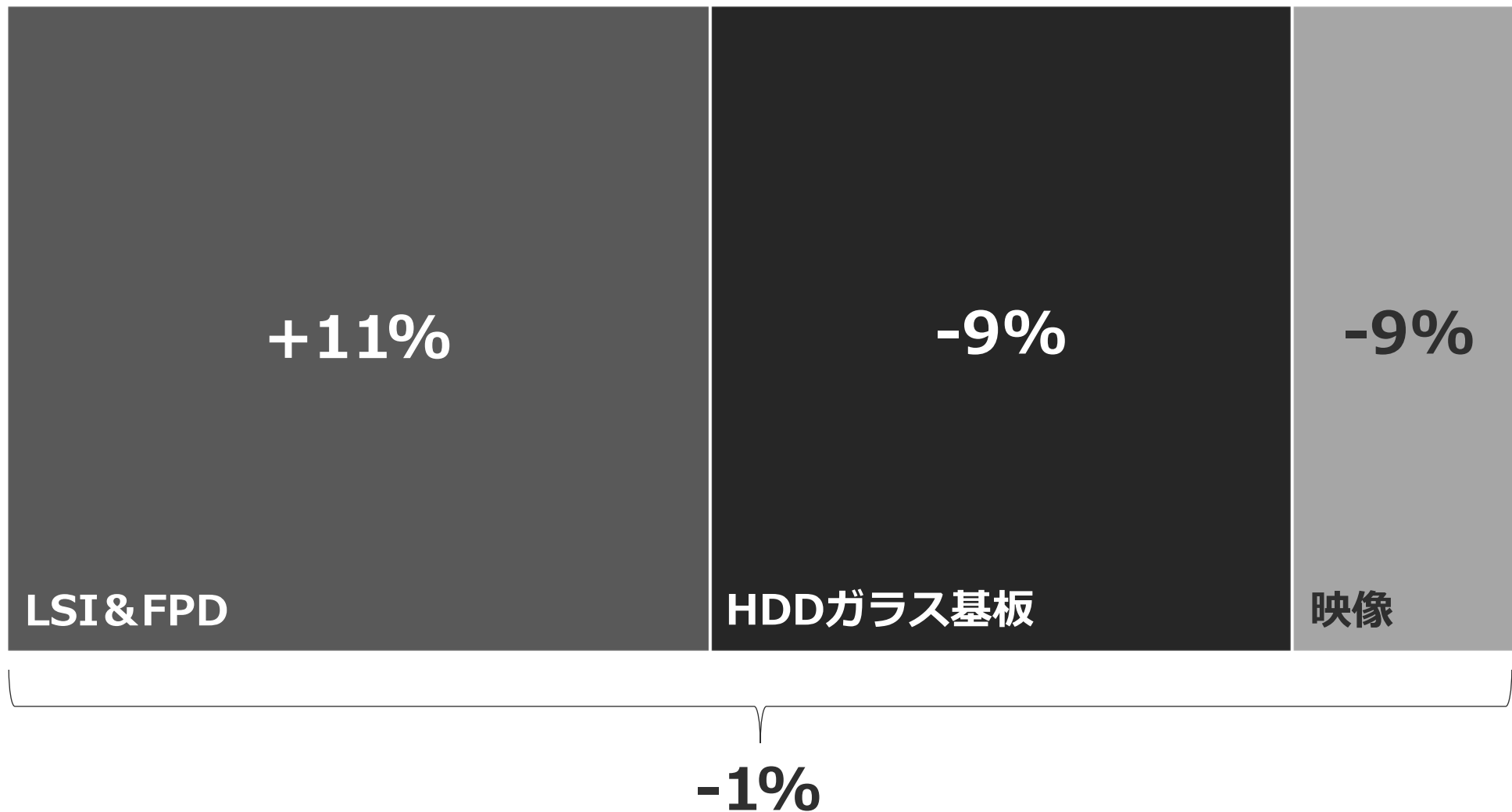
3. ライフケア事業概況

4. 総括

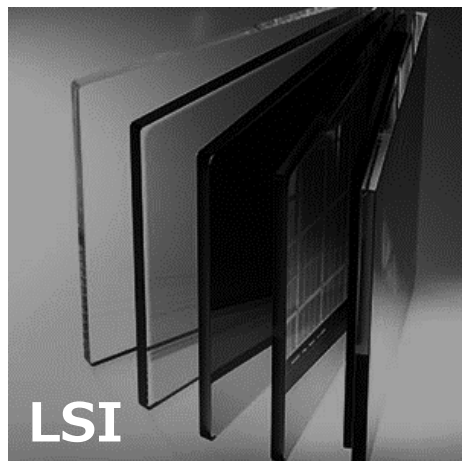
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

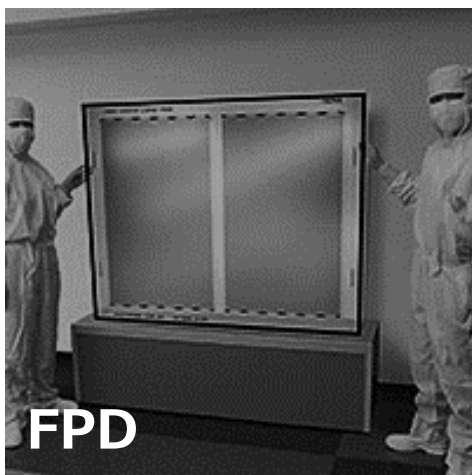
売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況

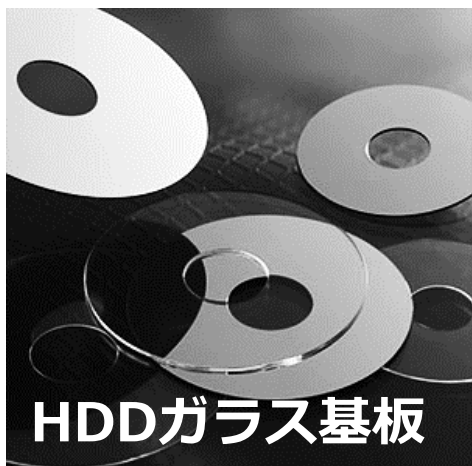


前四半期に続き、EUVブランクスの上上が前年同期比50%ほど成長。オプティカル製品（DUV）の上上も堅調な成長を示した。顧客側でEUV関連の投資が増額されるなど、依然として事業環境は追い風の状況となっている

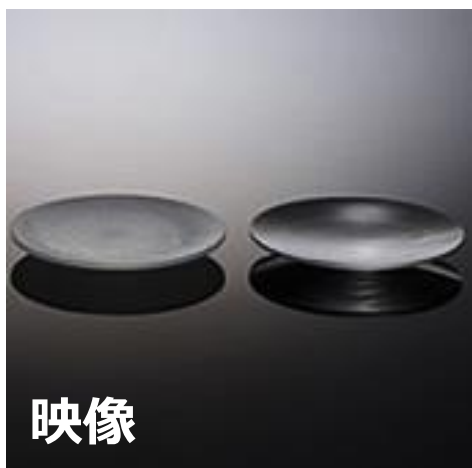


巣ごもり需要によるテレビ用パネルの需要が高止まりし、パネルメーカーの量産専念により当社にとって重要な研究開発需要が減少した。ハイエンドスマホ向けの需要は比較的旺盛であることから、今後も高機能マスクに注力していく

製品別概況



2.5"はSSDによる置き換えが継続したことにより減収となった。3.5"はデータセンターの循環需要のタイミングもあり成長が鈍化し、2.5"の落ちを補いきれなかった。Q4はデータセンターの需要が再び増加する見込み



需要が徐々に回復し、マイナス幅が改善。しかしながら、デジタルカメラ用途については、今後において市場が大幅に改善するのは難しいと捉えており、新規市場の開拓と構造改革を推し進めていく

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

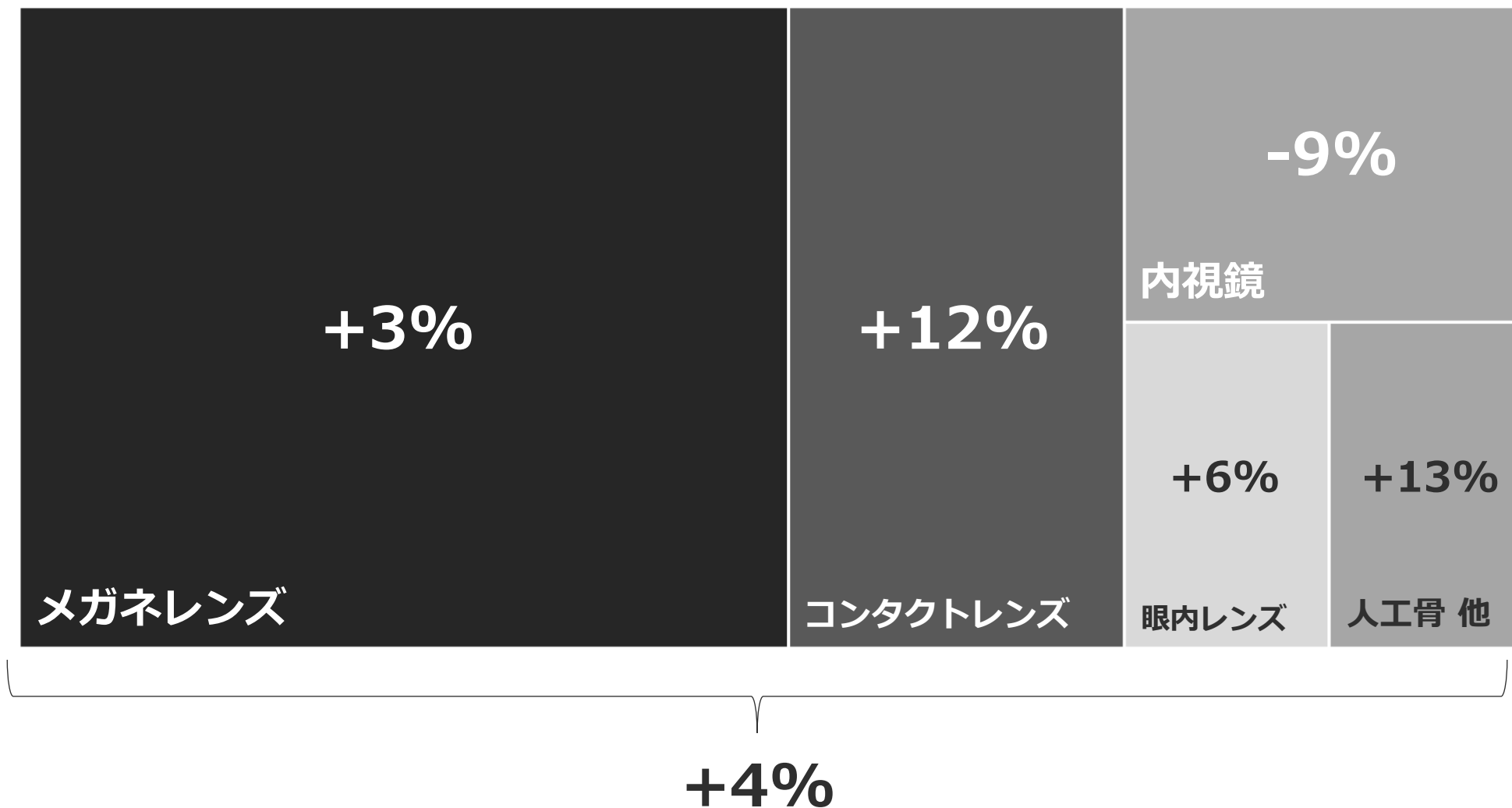
3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

4. 総括

5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



ロックダウンの影響（特に12月以降の厳しい措置）があったものの、前年比プラスに回復。直近において多くの国・地域において感染が再拡大しており注意を要するが、市場は徐々に正常化に向かう見込み



店舗の時短営業や在宅時間増によるコンタクトレンズ装用頻度の減少影響は続いたものの（市場全体で-10%前後の影響と推測）、消費増税による反動減があった前年同期と比べ、大幅な増収となった。今後はこれまでと異なる店舗形態での出店やM&Aの活発化を図っていく

製品別概況



COVID-19感染拡大の波により上下の変動はあるものの、白内障手術の実施件数と、これに伴う眼内レンズの需要が継続して回復、前年比プラス成長に。なかでも昨年5月に現地法人を設立した中国が前年比3倍の成長。ただし、今後は価格圧力もあり要注視。



COVID-19の影響による買い替え需要の先延ばしや通関手続きの遅れなどの影響は残ったものの、需要はQoQで見ると回復傾向に。今後については、病院の投資抑制は長引き、完全に正常化するには時間を要する見込み。

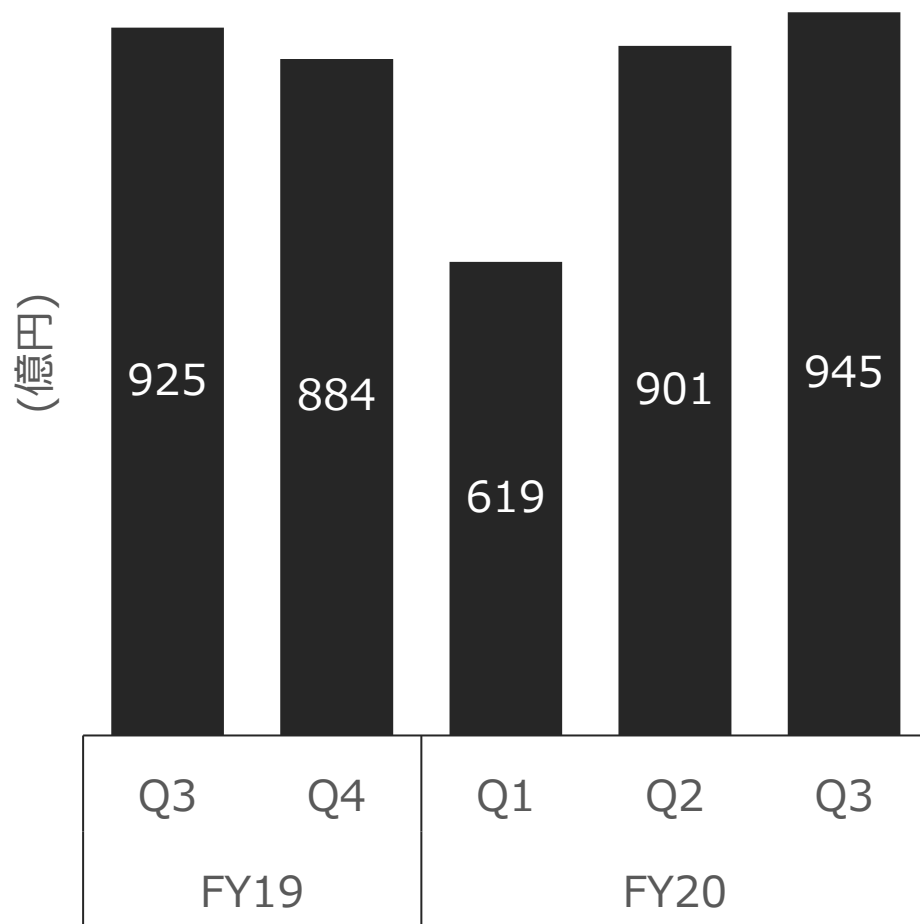
1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

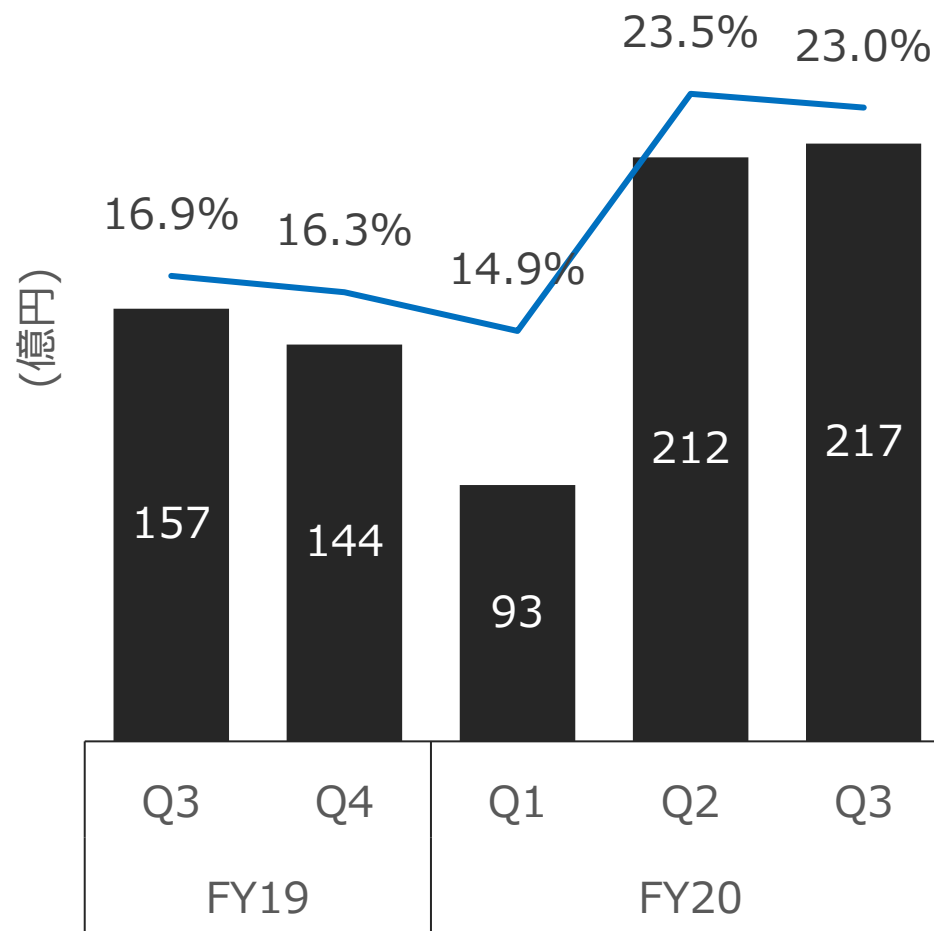
Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益



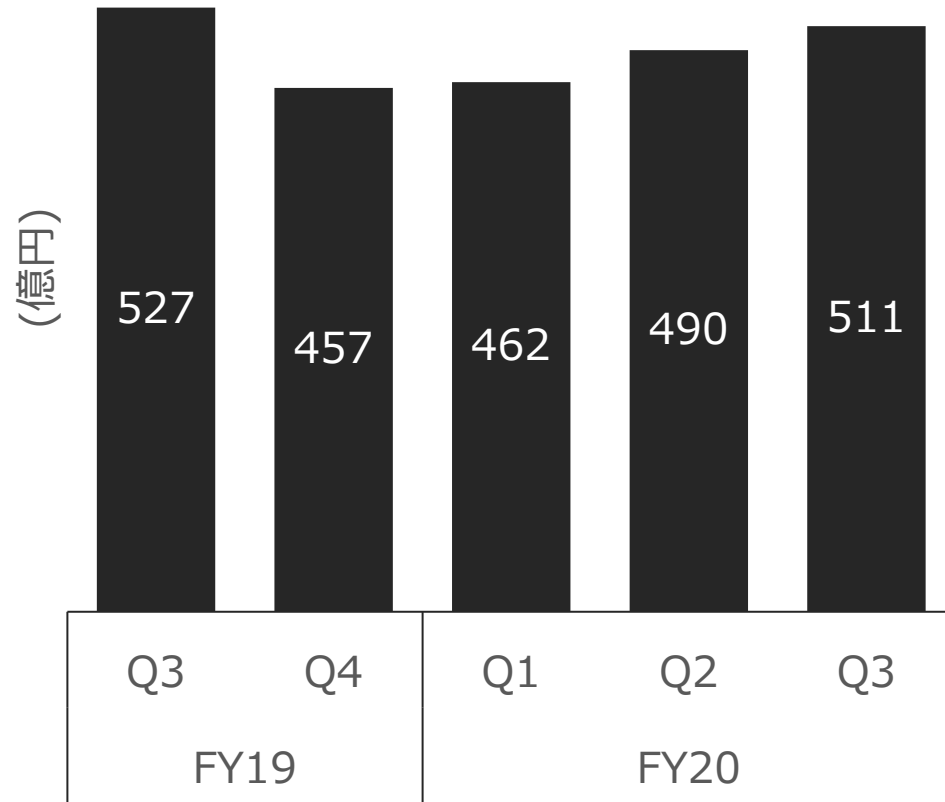
cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



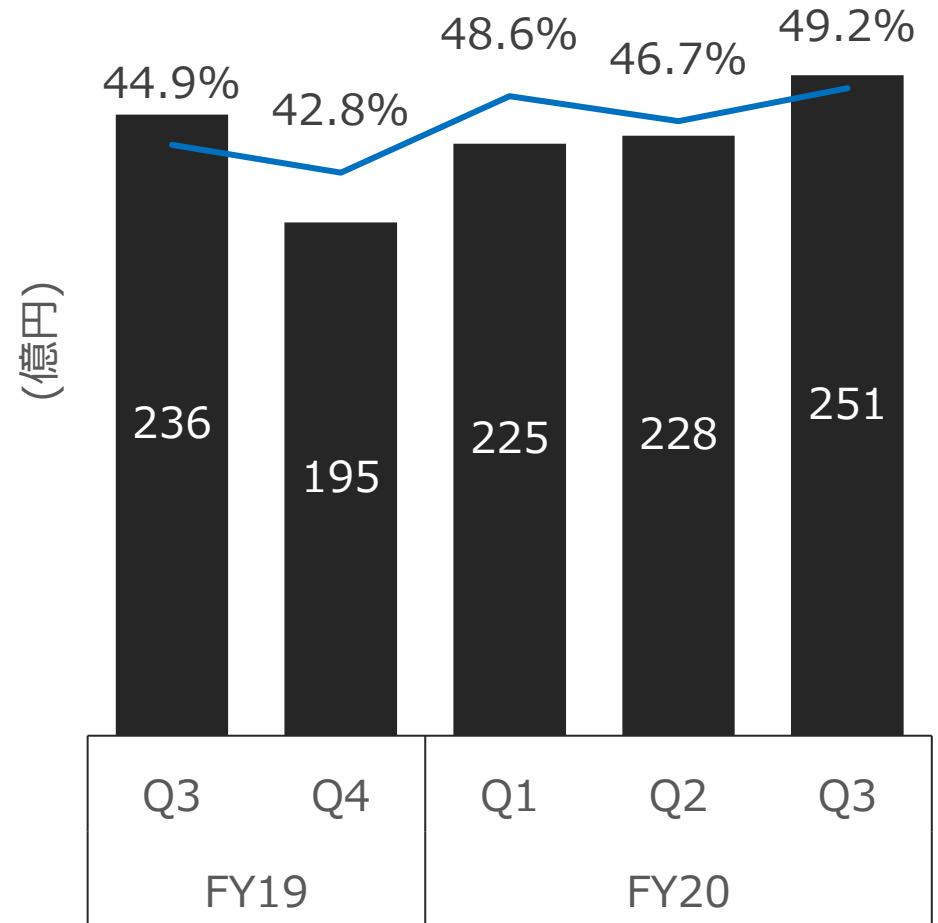
*外部売上の数値

情報・通信事業 QoQ推移

売上収益



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



*外部売上の数値

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2020年4月～2021年3月の会計期間を2021年3月期もしくはFY20と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際のコラ額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっているCOVID-19をはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。